



草加光陽育成会だより



たくさんの感動をありがとう！！



草加光陽育成会 会長 森田 とし子

平素より草加光陽育成会の活動にご理解、ご協力いただいております皆様に心より感謝申し上げます。

去る7月23日～9月5日に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックがコロナ禍という逆境の中で行われ、たくさんの感動を残して閉会しました。開幕に賛否両論の声を聞きながら着々と準備を進めてきた選手の方々を始め、大会に携われたすべての皆様が新型コロナウイルス感染症拡大防止対策にご苦労されたことに感謝しております。

パラリンピックでは、選手だけでなく、開会式、閉会式、解説などに多くの障害をもつ方たちが活躍されていて、大きく社会の流れが変わっていく感じが感じられました。誕生のときから障害をもった選手も、事故や病気で障害をもった選手も、いい人生を過ごしてほしい！前向きに生きてほしい！と願う親の愛が苦境を支え乗り越えてきたと思うと胸が熱くなります。

草加市スポーツ協会では、車いすバスケ、ボッチャ、水泳、スポーツ広場などを実施し、障害をもっているスポーツを楽しめるよう力を入れています。

東京2020パラリンピックを契機にして、スポーツを通して障がい者の社会参加が進み、障がい者を特別視しない共生社会により近づいていくことを期待しています。

結びに、草加光陽育成会会員の皆様、ご協力いただいている皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。



要望懇談会



要望懇談会が11月11日（月）市長公室にて行われました。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、育成会役員5名のみ参加してきました。詳細は別紙にて配布致します。

誕生!!新青空の家

《施設長 矢口 暁子》

10月1日(金)より、あしかびと事業を統合しました。人数も全員で28名となり、毎日にぎやかです。すでに活動の交流も始まっており、少しずつ気の合う仲間からの刺激を受けながら、職員共々成長するよい機会になると思っています。

そして、9月30日(木)をもってあしかびは閉所しました。あしかびが大好きだったみんな、最後のお別れ会をしました。皆さん、なんとなくそのことを理解し、新しい青空の家にも少しずつ慣れてきたところです。



今後の「あしかび」とその利用者様の将来について検討を重ね、苦渋の決断ではございましたが、令和3年9月末日をもちまして、運営を終了することとなりました。

両施設の保護者会様には、先に両施設役員の方へ説明させて頂き、保護者会を設定させて頂き説明に伺いました。ご家族様としては、利用者様の施設環境が変わることの心配と不安は当然のこと、思

社会福祉法人光陽会
理事長 大橋 愛子

平成31年1月「あしかび」地主の齋藤のぶ様がお亡くなりになり、土地の賃貸借契約終了までは、期間がありました。が、あつという間に、月日は過ぎてしまいます。当法人としては、今だったら「青空の家」の利用者定員25名から30名に増員すれば統合が可能で有ることから「あしかび」の利用者様全員と職員が一緒に「青空の家」に異動していただくことができるという結論に至りました。「あしかび」の利用者様全員と職員と一緒に異動することは、何よりも重要なことで、優先したいと考えました。

「青空の家」・「あしかび」から新「青空の家」へ

当法人の結論を受け入れて頂きました。

そして、「青空の家」作業室面積は、利用者定員(1名3.3㎡×30名)の基準を満たしていました。さらに利用者様に寄り添った支援が出来るよう施設整備をして、支援環境を整えました。

新「青空の家」は、生活介護施設(施設長: 矢口暁子)として、利用者28名・職員26名で令和3年10月1日付け、スタートしました。

最後に新「青空の家」のご家族様には、ご理解を頂き感謝申し上げます。

どうぞ長い目で見守って頂きますようお願い申し上げます。



《あしかび 保護者 小川 明美》

息子は越谷西特別支援学校を卒業後、「あしかび」に約10年お世話になりましたが、「通所施設を退所する時は、入所施設に入る時」と心に決め、在学中から「あしかび」を含め様々な施設を見学し、実習を重ねました。その中から「あしかび」に進路を決めたのは、自宅から近いという点もありましたが、何より発語の少ない息子が「あしかび」の名前をすぐに覚え、言えた点です。「おかあさん」と言えるようになるまで10年以上かかった息子が3日程教えただけで「あしかび」の名前を言えた事にとっても感激したことを昨日の事のように鮮明に覚えています。環境の変化にとっても敏感で、「あしかび」でも長い時間をかけ、職員さんが試行錯誤を繰り返して丁寧に対応してくださったお陰で、息子はとても成長しました。

今回「あしかび」が閉所となり、「青空の家」へ通所する事には、とても不安を感じましたが、「あしかび」の職員さんと利用者さんも一緒に、という点では息子も安心できるかな?と前向きに考えを改めることが出来ました。これは「あしかび」と「青空の家」が同じ社会福祉法人光陽会の施設であるがゆえの事だと思います。「あしかび」閉所から2カ月、息子は少しずつ「青空の家」に慣れ、明日どこ行くの?の私の問いにも「あおぞら」と言えるようになってきました。

草加市演奏家協会の皆様に感謝！

光陽会監事の斉藤幸子様のお力添えもあり、草加市演奏家協会様から『グロッケンシュピール』を寄贈していただきました！

6月7日に行われた贈呈式には、演奏家協会会長の河内様をはじめ、浦田様と杉浦様にもお越しいただきました。せっかくの機会でしたので、アングルン教室の大杉先生のご指導の下、来賓の皆様と一緒に合奏することに。この日のために練習を重ねてきたグロッケンとアングルンのハーモニーは素晴らしい音色で、とても和やかな式典となりました。



れんげ草がアングルンを中心とした音楽活動に力を入れていることから、寄贈していただけることになりました。グロッケンが施設に届くと、音楽好きや新しいもの好きな方々がすぐに興味を持ち、その澄んだ音色を楽しんでいました。贈呈式に向けて1時間も立ったまま練習する方もいたほど、その魅力の虜になっています♪これからの音楽活動がますます楽しみになるような、素敵な楽器をいただき本当にありがとうございました。皆で練習に励みたいとおもいます。



草加松原ロータリークラブ様からAED贈呈

草加松原ロータリークラブのみなさまから、このたびAED（自動体外式除細動器）を寄贈していただきました。

10月11日（月）にその贈呈式が執り行われました。同クラブから会長・二階堂祐司 様、幹事・佐々木一男 様、社会奉仕委員長・山口昭人 様が来設。寄贈品のお返しに、西れんげ草からもクラブの皆様にご手づくりサブレを進呈しました。秋晴れに恵まれて事業所の前で記念写真を撮ることができ、式典後にはメーカーの方によるAED講習会も実施しました。



草加松原ロータリークラブは、草加市の中核となる実業人及び専門職業人のなかから選ばれた36名の会員からなる奉仕クラブ団体で、地域社会への貢献にご尽力されています。

光陽会へも以前から数々のご支援をいただいております。西れんげ草としては2013年にサブレ作業・販売用の白衣とエプロンを寄贈していただき現在も使用中です。

全国手をつなぐ育成会研修会

9月27日(月)光輪の家3階にてオンライン参加

一般部 保護者 玉木 佳代

① 講師の紹介

又村あおい氏：(一社)全国手をつなぐ育成会連合会 常任理事兼事務局長、(社)日本発達障害連盟 JL ニュース編集長、内閣府障害者差別解消支援地域協議会の設置促進に関する検討会委員

② テーマ

【障害者差別解消法の改定と啓発キャラバン隊】
～ だから始めよう!啓発キャラバン隊 ～



③ 内容

今回は zoom でのオンライン研修会が行われました。前半は又村先生のお話。後半は zoom の機能を使ってブレイクアウトルームとして、各参加者がグループわけをして、ワークショップ形式で行われました。

前半は障害者差別解消法についての合理的配慮の説明と、民間事業者の合理的配慮提供が法的義務化され、公布から3年以内に施行されることをお話がありました。そしてそのために、身近な所から障害を理解してもらうにはと、啓発キャラバンの話がありました。

後半はブレイクアウトルームで、各団体が自己紹介をしたり、発表をしたりと、和やかな雰囲気になりました。啓発キャラバン隊の具体的な活動の様子などをビデオで紹介していただきました。

④ 感想

「合理的配慮」という言葉は、世間一般には聞き慣れない難しい言葉ですが、分かりやすく言えば「障害者が普通に暮らしていけるように、周囲で無理なく出来る限りの配慮(気配り)をする」ということではないかと思います。私もこれまで障害者の親として、社会生活において、随分と辛い思いをしてきました。お店で騒いで入店を断られたり、ホールの客席で大きな声を出していたら、うるさいと周りから言われ出て行くよう注意を受けたり……。でもそれは仕方のないことだと諦めてきましたが、少しずつ法改定されて、福祉がとてよくなってきていることに感謝いたします。

障害が正しく理解され、行政も事業所も一丸となって取り組んで頂けること、しっかりとしたサポート体制のもと、障害者に優しい明るい未来が開けていくことを願ってやみません。

今回の参加者が zoom によるオンライン研修会が初めての方が多く、勉強会を兼ねて、8人でパソコンの前にて参加いたしました。



遠方の団体の方々(九州)とお顔を拝見しながら、お話できたことをとても嬉しく思い、zoom の機能に感動いたしました。



■編集後記■

今号も、コロナ禍での発行となりました。少しずつですが、イベント等の行事が再開され、記事にすることができました。お忙しい中、ご協力をいただきました会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

広報：玉木 川井